

1日目 13:30~17:00〔210分〕

【演習】障害特性の理解とプランニング I

一日中活動場面における「支援の手順書」を作成するー

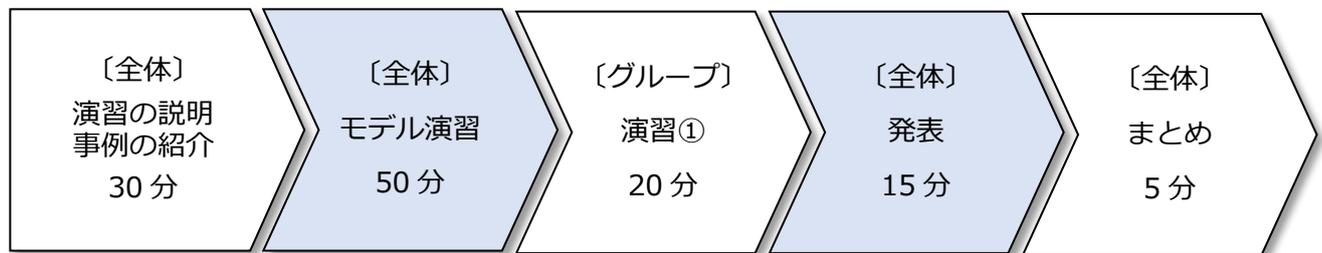
この時間は、生活介護事業所で強度行動障害のある人に日中の活動を提供する場面を想定し、自閉症や知的障害の障害特性に配慮した「支援の手順書」を作るプロセスを学びます。

【ポイント】

- ① 実際の起きたことや本人の行動を客観的に捉えましょう。
- ② 自閉症や知的障害の障害特性と環境との相互作用に着目して、「なぜそのような行動が起きているのか」という行動の理由や背景を考えてみましょう。
- ③ 本人の強みや好みを活用して具体的な支援の方法を検討しましょう。

【この時間の流れ】

(1) 支援の手順書を作成する4つのプロセスを学ぶ



(2) 日中活動場面におけるプランニングを学ぶ



事例の紹介 | 高崎のぞむさん

「情報シート」（別刷）の内容を確認します。



- 高崎のぞむさんの生育歴
- サービス等利用計画【要約】
- サービス等利用計画【週間計画表】
- 個別支援計画
- 生活介護事業所「あじさい」
- 支援の留意点

- 追加情報
- 行動援護を利用したのぞむさんの外出

必要な、手順の見直し

- のぞむさんが通っている生活介護事業所「あじさい」では、今年の春から6人ユニットでの活動を始めました。「のぞむさん」や他の行動障害がある利用者にとって『安心感』と『自立的な活動』を提供することを目標に、ユニット化や支援内容の見直しを開始しました。
- まずは各種記録内容を整理することから始めました。「のぞむさん、人が見えるとそっちが気になって作業や休憩ができなくなるんだ」「あっ、タイマーの意味は分かっているんだ」…整理した内容を「支援の留意点」としてまとめました。そんなとき、ふと、のぞむさんのある行動を思い出しました。
- 思い出していたのは「来所」場面です。来所し、静養室で更衣とスケジュール確認を行った後、作業室へ行って椅子に座って待つ（10:00開始までの約20分間）という流れなのですが、のぞむさんは作業室で一旦椅子に座ると、しばらくして廊下をウロウロと歩き回っています。そんなとき「椅子に座って待ちましょうか」と声をかけますが、全く聞いていない様子です。日によっては、徐々に表情が強ばり、跳びはねたり、別の利用者に向かっているんじゃないかと思う場面もありました。
- いつもは、作業担当の職員が10時前に来ると、すぐに作業室の椅子に戻ります。でもその人が急に来れない日は、10時を過ぎても、他の人が作業をしていても廊下を歩いていた（10:45のお茶休憩から参加）。

手順書の作成プロセス

観察・予測 | 日々の生活状況やアセスメントシート等から情報を収集

生じている問題・生じうるリスクを具体的に記す

① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）と環境要因を推測し、リストアップする。

② 障害特性を「強み」の表現に変換

リストアップした障害特性を「強み」の表現に変換する。

③ 他の場面から「強み」のリスト追加

他の場面の観察から、リストされていない「強み」を加える。

④ 「強み」を活かした新たな環境

生じている問題・生じうるリスクのある場面で、「強み」のリストを活かした環境づくり（構造化）の計画を立てる。

モデル演習 | 来所場面

右の支援手順書は、のぞむさんの「これまで」の支援手順書です

これから先に示した「手順書の作成プロセス」に沿って、来所場面の支援手順（右表では「サービス手順」）を見直します

アセスメントや見直した手順が「正しい」かどうかではなく、作成のプロセスを理解し（根拠に基づいた）、プランを考えることがここでの目標です

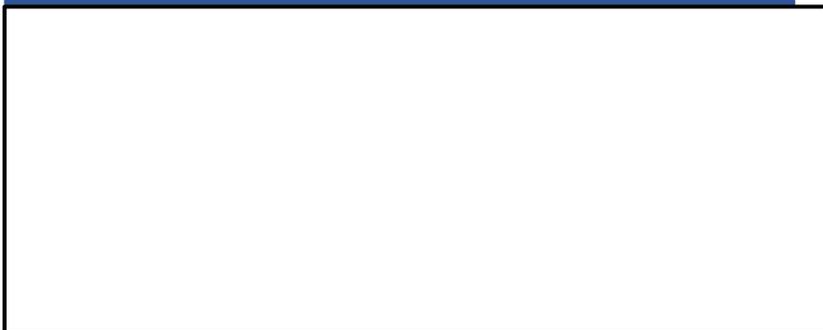
時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 ・ 静養室でスケジュール確認 ・ 静養室で着替えて作業室へ
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て】
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て】
11:45-12:45	昼食 昼休み	【スケジュール5：昼食】
12:45-13:30	散歩	【スケジュール6：散歩】
13:30-14:35	自立課題	【スケジュール7：自立課題】
14:35-15:00	帰り	【スケジュール8：帰宅】

モデル演習 | 具体的に記載します

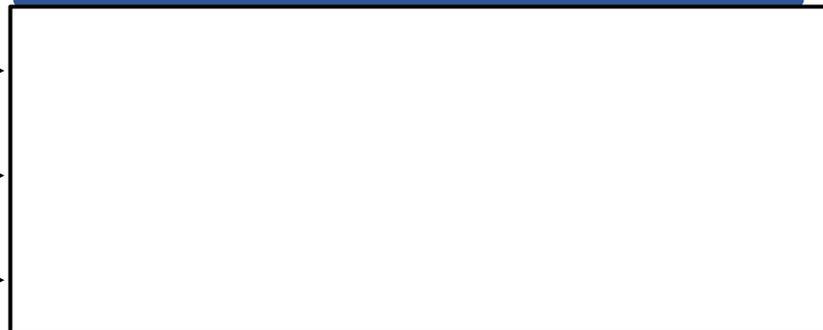
生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、全く聞いていない様子。徐々に表情が強ばり、他害のリスクを感じる。

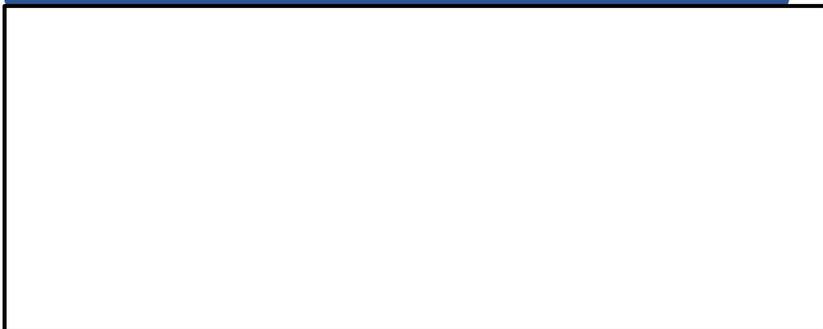
① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル



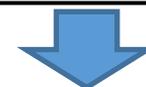
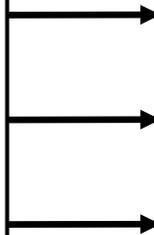
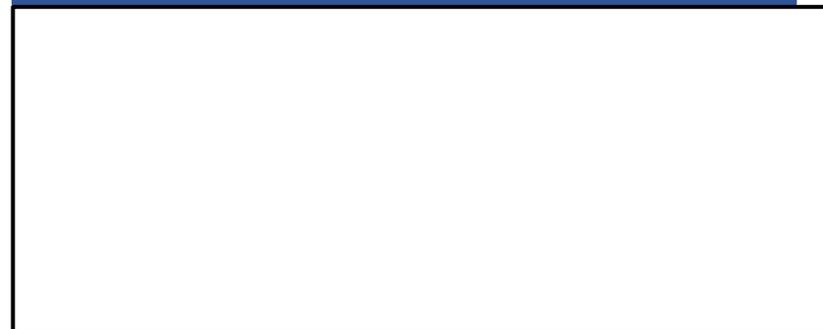
② 障害特性を「強み」の表現に変換



③ 他の場面から「強み」のリスト追加



④ 「強み」を活かした新たな環境

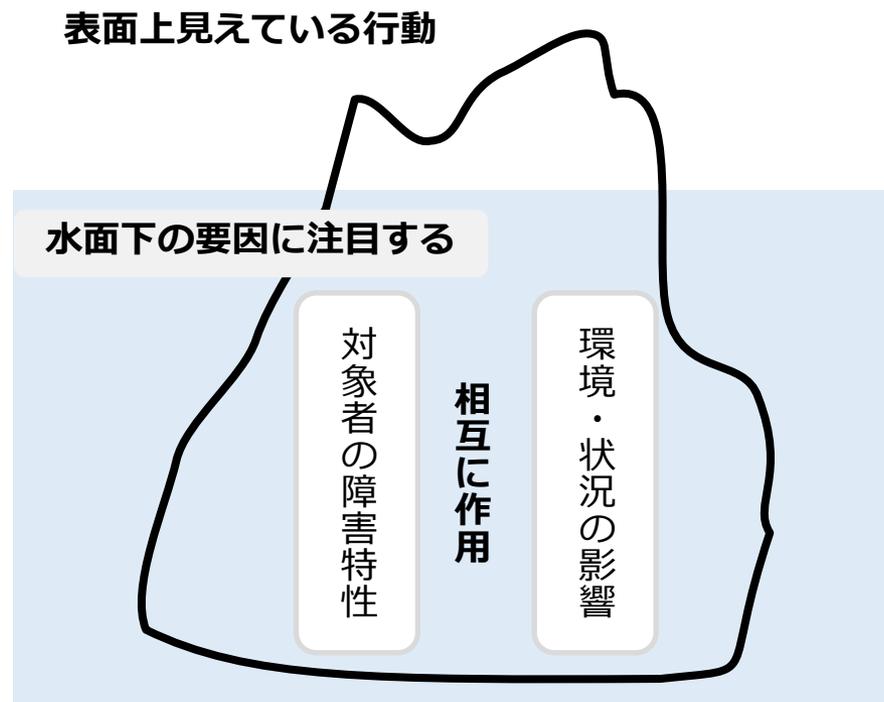


手順書の作成プロセス①

①背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップします。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意しましょう。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。



表面上見えている行動

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる
(作業室で、開始時間まで座って待てない)
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある
(他害のリスク有り)

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをうまく持てない
- ・ 言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手
- ・ 物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい

環境要因：

- ・ 待つためのグッズや方法が準備されていない
- ・ いつまで待つかが示されていない（本人に理解できるようになっていない）
- ・ ウロウロと歩き回る動線上に人がいる

……等

モデル演習 | 具体的に記載します

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある（他害のリスク有り）

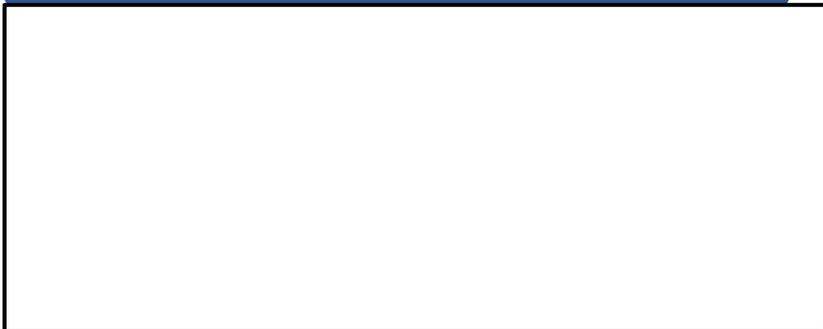
① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・ 先の見通しをうまく持てない（待つためのグッズや方法が準備されていない）
- ・ 言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手（言葉で指示されている）
- ・ 物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい（いつまで待つかが示されていない）

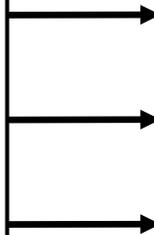
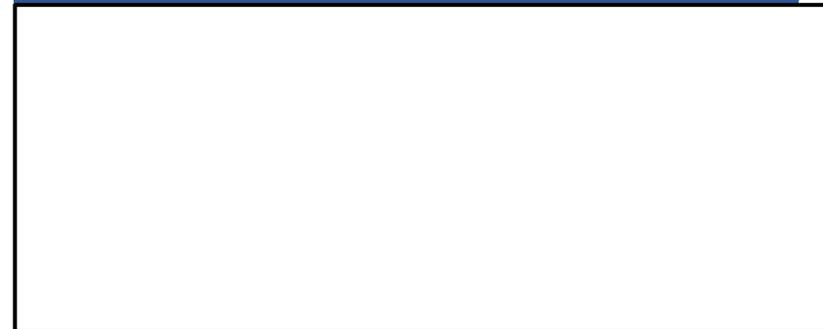
② 障害特性を「強み」の表現に変換



③ 他の場面から「強み」のリスト追加



④ 「強み」を活かした新たな環境



手順書の作成プロセス②

②障害特性を強みの表現に変換する

苦手なことばかりに注目すると、「苦手なこと（もの）を避ける」支援に偏ってしまいます。リストアップした障害特性を「強み」の表現に変換（リフレーミング）しましょう。視点を変えることで、強みを活かした支援に繋げやすくなります。

言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手

「いつも」と違うこと・変化を苦手とする

能力の発達がアンバランス

目で見てわかることへの理解は得意

慣れ親しんだこと・もの・やり方は得意（好む）

得意なことに関してはとても高い能力を持っている

ヒントシート：自閉症スペクトラム障害の特性（抜粋）を参考にして下さい

モデル演習 | 具体的に記載します

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある（他害のリスク有り）

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・先の見通しをうまく持てない（待つためのグッズや方法が準備されていない）
- ・言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手（言葉で指示されている）
- ・物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい（いつまで待つかが示されていない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- ・見通しが持てることには安心して自立的に取り組むことができる
- ・目で見て分かることの理解は得意
- ・「始め」と「終わり」がわかるようになっていればしっかり守ることができる

③他の場面から「強み」のリスト追加

④「強み」を活かした新たな環境

手順書の作成プロセス③

③他の場面から「強み」のリストを追加

他の場面の観察から、リストされていない「強み」を加えていきます。

対象者の「強み」を様々な場面、記録から膨らませていきます。

特定の行動上の問題やリスクが推測される場面だけでなく、日常生活全般の様子から、強みのリストを補強していきます。



保護者からの情報



生育歴



生活全般の記録



各種記録

モデル演習 | 具体的に記載します

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある（他害のリスク有り）

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・ 先の見通しをうまく持てない（待つためのグッズや方法が準備されていない）
- ・ 言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手（言葉で指示されている）
- ・ 物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい（いつまで待つかが示されていない）

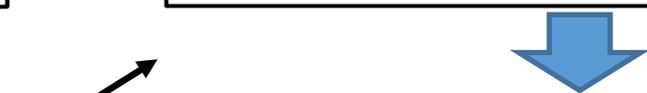
②障害特性を「強み」の表現に変換

- ・ 見通しが持てることには安心して自立的に取り組むことができる
- ・ 目で見て分かることの理解は得意
- ・ 「始め」と「終わり」がわかるようになっていればしっかり守ることができる

③他の場面から「強み」のリスト追加

- ・ 休憩時間、静養室のソファで横になっていることが多い
- ・ タイマーの意味は分かっている
- ・ 刺激が少ない場所で、一人でいることを好むが、30分以上続けると興奮することがある

④「強み」を活かした新たな環境



手順書の作成プロセス④

④「強み」を活かした新たな環境

生じている問題・生じうるリスクのある場面で、「強み」のリストを活かした環境づくり（構造化）の計画を立てます。

構造化とは、その場の状況に最も適切な意味と見通しを明確に伝え、安心できかつ自立的に行動ができるよう環境（もの、事、人）を調整することです。

物理的構造化	スケジュール	ワークシステム	決まった手順や習慣	視覚的構造化
<ul style="list-style-type: none">・物理的、視覚的に分かりやすい境界を作る・活動と場所の1対1の対応・妨害刺激の除去	どんな活動があるのか、その流れがどうなっているのかを視覚的に示す方法	自立的活動をする為の情報伝える方法 ①何をするか ②どれぐらいするか ③どうなったら終わるのか ④終わったら次に何をするか	<ul style="list-style-type: none">・いつも同じ手順で課題、活動を行う・習慣化することで、普段の生活を安定したものにす・ルーチンを使って繰り返している内に学習する	“見て分かる”ようにして理解しやすくする ①視覚的提示 ②視覚的明瞭化 ③視覚的組織化

モデル演習 | 具体的に記載します

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある（他害のリスク有り）

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・ 先の見通しをうまく持てない（待つためのグッズや方法が準備されていない）
- ・ 言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手（言葉で指示されている）
- ・ 物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい（いつまで待つかが示されていない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- ・ 見通しが持てることには安心して自立的に取り組むことができる
- ・ 目で見て分かることの理解は得意
- ・ 「始め」と「終わり」がわかるようになっていればしっかり守ることができる

③他の場面から「強み」のリスト追加

- ・ 休憩時間、静養室のソファで横になっていることが多い
- ・ タイマーの意味は分かっている
- ・ 刺激が少ない場所で、一人であることを好むが、30分以上続けると興奮することがある

④「強み」を活かした新たな環境

- （静養室にて、スケジュール確認、更衣後）
- ・ 静養室内にて、ソファに座って休憩する
→スケジュールに休憩を追加
+ 人が気にならないよう衝立設置
- ・ 休憩の始まりと終わりはタイマーを使用
→タイマー（20分）

演習① | 来所場面の手順を考える

【演習の手順】



【事前準備】

- 「司会者」「記録者」「発表者」を決めましょう。これ以降は、演習ごとに役割を時計回りで交代します。
- のぞむさんの来所場面の状況（モデル演習の4つのプロセス）を再確認しましょう。

演習① | 支援手順を考える（15分）

グループでのぞむさんの朝の来所場面のサービス手順を考えましょう。巻末のワークシート（WS-1）を使ってください。

- 4つのプロセスで導かれたアイデアを活かしましょう。
- どのような点に悩んだのか、整理しておきましょう。

演習① | 発表（15分）

2～3グループに発表してもらいます。発表者はグループで話し合われた内容を全体に報告してください。

- 4つのプロセスで導かれたアイデアをどのように活かしましたか？
- どのような点に悩みましたか？

まとめ | 手順書の作成プロセス

観察・予測 | 日々の生活状況やアセスメントシート等から情報を収集

生じている問題・生じうるリスクを具体的に記す

① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）と環境要因を推測し、リストアップする。

② 障害特性を「強み」の表現に変換

リストアップした障害特性を「強み」の表現に変換する。

③ 他の場面から「強み」のリスト追加

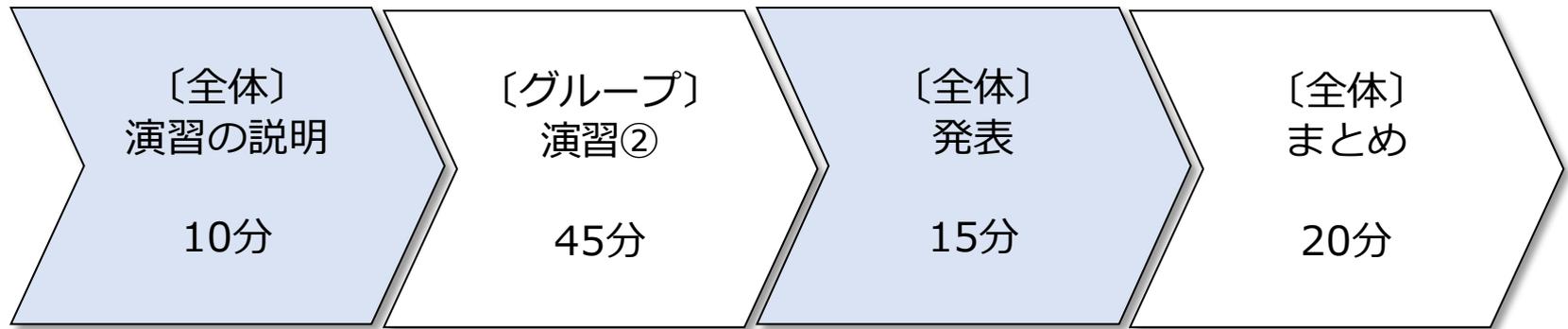
他の場面の観察から、リストされていない「強み」を加える。

④ 「強み」を活かした新たな環境

生じている問題・生じうるリスクのある場面で、「強み」のリストを活かした環境づくり（構造化）の計画を立てる。

演習② | 班別活動の手順を考える

【演習の手順】



【事前準備】

- 「司会者」「記録者」「発表者」の役割を交代します。
- スライド「これまでの作業、これからの作業」、次頁のこれまでの手順書の内容を確認します。

これまでの作業、これからの作業

- 今年の4月から約半年間、のぞむさんはDVDの表面に貼ってあるシール（新作、準新作）を剥がす作業を行っていました。最初の4ヶ月は、シールを剥がすことや、剥がした後のシールやケースの置き場所が分かりませんでした。また剥がし終えたカバーは机右横の段ボール箱に入れてもらうようにしていたのですが、元の場所にカバーを戻してしまうことも度々ありました。
- 分かりやすいようにと1日分の作業を本人の机上に置いたり、タイマーを設置し鳴ったら終わり（45分間でセット）としていました。しかし、タイマーが鳴る前から中断したり、逆にタイマーが鳴っても終われないことがありました（声かけしても終われない）。そんな日は大きな声を出し、部屋から飛び出してしまうことがよくありました。
- 一番困ったのは、間違えていたときに教えてあげたり（ときには注意も）、終われなかったさいに声かけすると、大声を出したり、掴みかかってくることでした。でも同じ教えてあげるのでも、黙って手本を見せていたときは怒らず、じっと職員の手元を見ていました（…そういえば、それ以降作業の間違いがなくなったかも）。
- 少しずつ手順を覚え作業ができるようになってきたのぞむさんですが、半年を過ぎても作業が中断したり、又は終われないということが続いています。もう一度のぞむさんの特性を踏まえ、強みを活かした支援内容を考えてみたいと思います。

演習② | 班別活動の手順を考える

右の支援手順書は、のぞむさんの「これまで」の支援手順書です

「手順書の作成プロセス」に沿って、班別活動の支援手順（右表では「サービス手順」）を見直します

アセスメントや見直した手順が「正しい」かどうかではなく、作成のプロセスを理解し（根拠に基づいた）、プランを考えることがここでの目標です

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 ・ 静養室でスケジュール確認 ・ 静養室で着替えて作業室へ
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て】
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て】
11:45-12:45	昼食 昼休み	【スケジュール5：昼食】
12:45-13:30	散歩	【スケジュール6：散歩】
13:30-14:35	自立課題	【スケジュール7：自立課題】
14:35-15:00	帰り	【スケジュール8：帰宅】

演習② | 支援計画を立てる (40分)

グループで話し合いながら、4つのプロセスを整理し、班別活動場面の支援の計画を立てましょう。巻末のワークシート (WS-2) を使ってください。

- 4つのプロセスで導かれたアイデアをどのように活かしましたか？
- どのような点に悩みましたか？

演習② | 発表（15分）

2～3グループに発表してもらいます。発表者はグループで話し合われた内容を全体に報告してください。

- 4つのプロセスで導かれたアイデアをどのように活かしましたか？
- どのような点に悩みましたか？

支援手順書 | 作成のpoint

【各活動の時間】

一つ一つの活動の、持続可能な時間を把握しておくことは大切なpointになります。その中で、少し余裕を持って次の活動に移る活動を設定してみましょう。

【強みの考え方】

例えば「本をパラパラとめくって過ごすことが好き（5分間）」という情報があったとします。この情報をどのように受け取りますか？

仮に、こうした短時間の活動が6つあれば、合計30分過ごすことが出来ます。また5～6分だけ過ごして欲しい場合などは、最も適した活動ともいえます。「強み」を積極的に意識してみましょう。

まとめ | 支援計画作成のプロセスが重要

まとめ | 手順書の作成プロセス

観察・予測 | 日々の生活状況やアセスメントシート等から情報を収集

生じている問題・生じうるリスクを具体的に記す

① 背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）と環境要因を推測し、リストアップする。

② 障害特性を「強み」の表現に変換

リストアップした障害特性を「強み」の表現に変換する。

③ 他の場面から「強み」のリスト追加

他の場面の観察から、リストされていない「強み」を加える。

④ 「強み」を活かした新たな環境

生じている問題・生じうるリスクのある場面で、「強み」のリストを活かした環境づくり（構造化）の計画を立てる。

参考文献

- 藤村出、服巻智子、諏訪利明、内山登紀夫、安倍陽子、鈴木信五「自閉症のひとたちへの援助システム」朝日新聞厚生文化事業団, 1999
- 佐々木正美、内山登紀夫、村松陽子「自閉症の人たちを支援すること」朝日新聞厚生文化事業団, 2001
- ノースカロライナ大学医学部精神科TEACCH部／服巻繁「見える形でわかりやすくーTEACCHにおける視覚的構造化と自立課題」エンパワメント研究所, 2004
- 佐々木正美／宮原一郎「自閉症児のための絵で見る構造化」学習研究社（学研）, 2004
- 佐々木正美「自閉症のすべてがわかる本」講談社, 2006
- 水野敦之「「気づき」と「できる」から始めるフレームワークを活用した自閉症支援」エンパワメント研究所, 2011